

2.1.5 アンカー体に作用する応力と支持機構の違い

次図は風化凝灰岩 ($q_u=3.8\text{Mpa}$) 層内で測定したアンカー体周辺地盤の応力状態であり、それぞれの支持機構が明瞭に異なることがわかる。

摩擦（引張）型（図 1.5.1）

アンカー体には引張力が主体的に働き、圧縮帯は不規則かつ局部的に形成されることから、主にアンカー体の付着により引抜き耐力が確保される定着システムといえる。

摩擦（圧縮）型（図 1.5.2）

アンカー体を中心に $\phi 50\text{cm}$ 程度の紡錘状の圧縮帯が形成されており、付着のほか、支圧や摩擦等の複合的な抵抗により引抜き耐力が確保される定着システムといえる。

くさび型（図 1.5.3）

アンカー体を中心に、幅広い圧縮帯が形成されており、アンカー体と定着地盤の摩擦（あるいは定着地盤の支圧強度）により引抜き耐力が確保される定着システムといえる。

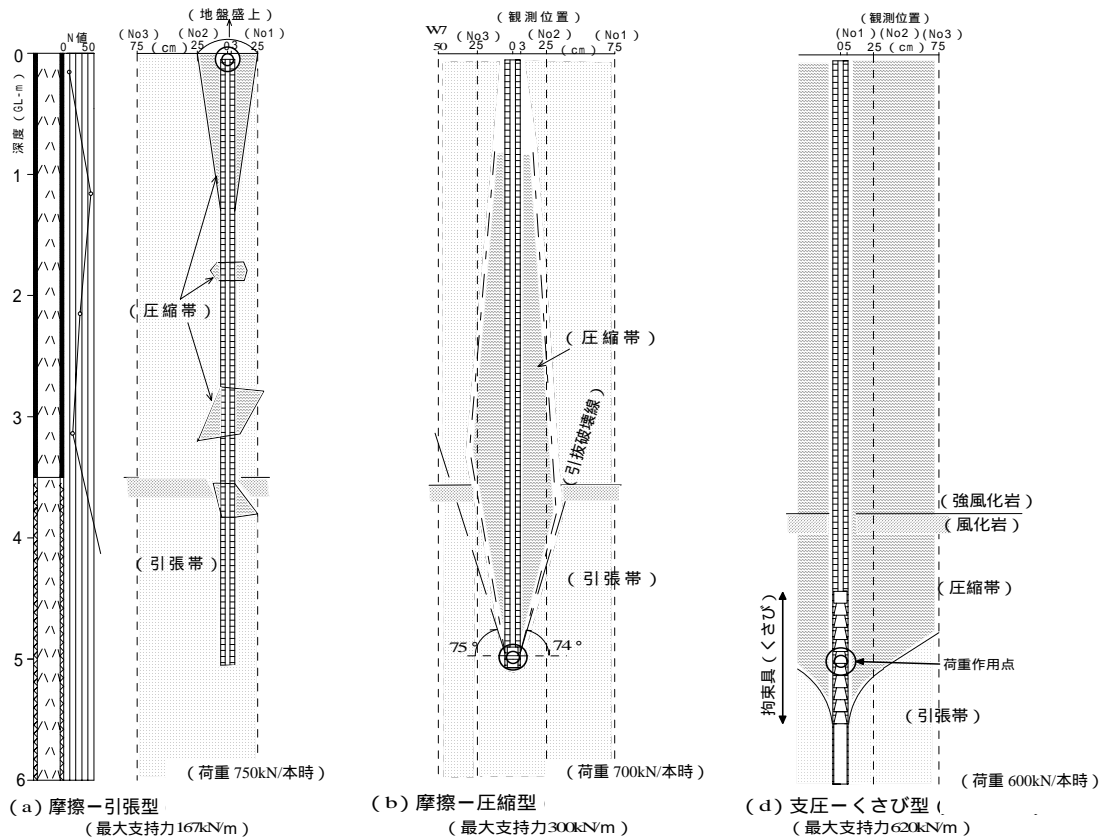


図 1.5.1 摩擦（引張）型

図 1.5.2 摩擦（先端圧縮）型

図 1.5.3 くさび型